



地域社会の中では、ひとり暮らし高齢者、認知症高齢者、精神障がい者や知的障がい者等の当事者の問題、子育ての悩み、虐待等と様々な問題が…

## 小地域福祉活動に 高まる期待

近隣関係の希薄化や過疎化による人口減少・少子高齢化、社会的孤立と排除など、地域の中のさまざまな福祉課題がある中で、小地域福祉活動への期待が高まっています。

現在策定中の、穴栗市社協「第二次地域福祉推進計画（平成23年度～27年度）」では、推進目標の一つとして「小地域福祉活動」を掲げています。昨年12月には、計画づくりに反映するため、各自治会福祉連絡会代表（代表福祉委員）の協力ののもと、小地域福祉活動アンケート調査を実施しました。

今月号では、小地域福祉活動を進めていく上で重要な役割と機能を担っていく、小地域福祉推進組織（自治会福祉連絡会）づくりについて、どのようにすすめていくのかを考えます。

# 小地域福祉活動こそ 地域福祉の原点

## ～住民参加でつくる福祉連絡会～

小地域福祉活動とは、自治会や隣保単位で取り組む「ふくしのまちづくり」をめざした、住民による主体的なささえあい活動です。近隣の住民が協力しあい、お互いにささえあう小地域福祉活動は、地域内の信頼関係を築き、連帯感や安心感を生みます。

## 「福祉委員」が 小地域福祉活動の要

この小地域福祉活動の要となるのが「福祉委員」です。活動を進めていく上での世話役、まとめ役であり、住民にとって身近な福祉の相談窓口として活動しています。

小地域福祉活動は、福祉委員が中心となり進めています。特定の少数の人でするものではありません。

住民に小地域福祉活動の理解を深め、活動の輪を拡大していくためには、福祉連絡会（推進組織）づくりを進めていくことが重要です。

## 小地域福祉活動は 福祉連絡会が推進

福祉連絡会は、自治会内の活動者（福祉委員・民生委員児童委員等）や各種団体（自治会、婦人部、老人会等）を構成員とし、ふくしのまちづくりを進める推進組織です。

本会では、各自治会に福祉連絡会の設置を進めています。それぞれの地域の実情（世帯数、高齢化率や自治会内の組織、これまでの福祉活動の取り組み）や抱える課題は異なり、地域の実態に合わせた活動や組織づくりを進めていく必要があります。